

日本赤十字九州国際看護大学学術情報リポジトリ

タイトル	10代妊婦が妊娠を継続するプロセス：心理的側面と社会的対処に着目して
著者	大塚亜沙子, 岡村純
掲載誌	日本赤十字九州国際看護大学紀要, 13 : pp 3-17.
発行年	2014.12.25
版	publisher
URL	http://id.nii.ac.jp/1127/00000380/

<利用について>

- ・本リポジトリに登録されているコンテンツの著作権は、執筆者、出版社(学協会)などが有します。
- ・本リポジトリに登録されているコンテンツの利用については、著作権法に規定されている私的使用や引用などの範囲内で行ってください。
- ・著作権に規定されている私的使用や引用などの範囲を超える利用を行う場合には、著作権者の許諾を得てください。
- ・ただし、著作権者から著作権等管理事業者(学術著作権協会、日本著作出版権管理システムなど)に権利委託されているコンテンツの利用手続については各著作権等管理事業者に確認してください。

原著

10代妊婦が妊娠を継続するプロセス
—心理的側面と社会的対処に着目して—大塚 亜沙子¹⁾ 岡村 純¹⁾

本研究は、10代妊婦が妊娠に気づいてから出産に至るまでの妊娠を継続するプロセスを明らかにすることを目的とした。妊娠確定時に未婚で初産の10代妊婦4人を対象に、妊娠を継続するプロセスについて、妊娠9ヶ月時にライフライン描写後、ナラティブ・インタビューを、さらに産後1ヶ月時に半構成的面接を実施し、質的分析を行った。妊娠を継続するプロセスにおいて4人に共通するライフイベントは「妊娠がわかる」のみで、1人ひとりのライフイベントは多様性に富んでいた。4人のライフラインは共通して妊娠前半にピークまで下がり、妊娠後半から出産まで徐々に上がっていた。2人以上に共通したストレスフルライフイベントは、パートナーに関することであり、10代妊婦は妊娠前半にパートナーとの関係性やパートナーの曖昧な態度によって精神的葛藤や心理的ストレスがみられた。10代妊婦それぞれが、家族に妊娠継続を反対された場合に妊娠継続の理解を得るためのプロセス、パートナーの曖昧な態度や不安定な仕事の場合にパートナーを説得するためのプロセス、望んだ妊娠で家族に妊娠継続の理解を得ることができた場合であっても、パートナーの職場のトラブルによる経済的問題を解決するためのプロセス、つわりなどのマイナートラブルに対処するプロセスにおいて、様々な葛藤をしながら妊娠を継続していくことが示唆された。

キーワード：10代妊婦、ライフイベント、心理的側面、社会的対処、妊娠継続するプロセス

I 諸言

日本においては、10代女性の妊娠や出産に対する考え方は、近年変わってきている。10代女性が妊娠した場合に出産する割合は、2004年は34.9%、2008年は38.9%であり¹⁾、妊娠を肯定的にとらえている10代妊婦は増えている^{2) 3) 4)}。したがって、医療者は10代妊婦に対して望まない妊娠の予防のための性教育に加えて産み育てるための支援も検討していくべきである。

10代女性は思春期の発達課題を達成するために友人が欠かせない⁵⁾が、10代出産が出生総数の1.3%(2011年)である⁶⁾ため、同じ環境の仲間がおらず孤立しやすい^{7) 8)}。また、15~19歳における第1子の妊娠先行型結婚の割合は約8割強(2009年)^{9) 10)}で、10代妊婦は予定外の妊娠がほとんどであり、出産を選択できた大きな理由は結婚である^{11) 12)}ことが明らかになっている。10代妊娠においては生活する人々の文化や社会背景を踏まえた対象理解が重要であるため⁶⁾、10代妊娠や未婚が一般化していない日本社会で、10代妊婦を理解する必要がある。

日本においては、就学と妊娠・育児を両立できる環境が整えられておらず¹³⁾、10代妊婦は予定外の妊娠により学業継続と中断とで葛藤を引き起こしており、短時間で入籍やパートナーとの共同生活などの決断や実行に迫られている¹⁴⁾。また、10代の母親の世帯の職業は無職が1割弱を占め¹⁵⁾、不安定職業にならざるを得

ない。さらに、10代における非摘出子の出生の割合は4人に1人(2011年)¹⁶⁾であり、10代の有配偶者の離婚率は約8割強(2010年)である¹⁷⁾。10代妊婦は、成長発達過程にあるうえに学業継続や入籍に悩み、妻や母親としての役割を担う立場を迫られる一方で、未婚や離婚によりシングルマザーとなり^{18) 19)}、パートナーの協力が得られにくいため、危機的な状況に陥ることが予測される。したがって、10代妊婦は複雑な心理的・社会的・経済的・家族的な問題を多く抱えており²⁰⁾、心理的・社会的支援が早急に望まれる。しかし、10代妊婦への支援は、分娩期・産褥期の短期間に限局されていることが多く、散発的で個々に行われており、組織的な体制が整っていないのが現状である²¹⁾。

10代妊婦の気持ちを掘り起こした先行研究^{7) 8) 14) 22) 23)}では、複雑で混沌とした心理やその断片的な経過は記述されているが、心理的变化や社会的対処を継続的に捉えた研究はない。小川らの質的研究²³⁾では、抽出された高頻度のストレスフルライフイベントに対する対処方略パターンとその変化については明らかにされているが、1人ひとりの経過に基づいた対処方略や変化は示されておらず、転用可能性は不十分であるため、個々の経過に基づいた10代妊婦への支援に役立てることが困難であると考えられる。

以上述べたように、10代妊婦の人口統計学的特徴に基づく社会背景の現状は明らかになっている²⁴⁾が、10代妊婦1人ひとりの心理的・社会的側面における質的

1) 日本赤十字九州国際看護大学

分析は不十分である。そこで、本研究では、10代妊婦が妊娠に気づいてから出産に至るまでの妊娠を継続するプロセスを明らかにすることを目的とした。

II 研究方法

1. 研究デザイン

10代妊婦が自分の妊娠をどのように受け止め、どのような意味づけをするかを本人の語りを通して記述する質的記述的研究デザインを用いた。

2. 本研究における用語の定義

- 1) 10代妊婦：妊娠がわかった時点で16歳から19歳までの妊婦
 - 2) 妊娠継続するプロセス：ライフイベントにおける心理的側面の問題に社会的対処していくプロセス
 - 3) 社会的対処：社会や対人に働きかけ、関わりながら対処すること
 - 4) ライフライン：妊娠がわかって現在に至るまでの妊婦の感情の浮き沈みで、妊婦の気持ちを基線0として、「嬉しい」と感じた時を+方向に、「辛い」と感じた時を-方向に1本の線で表し、妊娠月数とライフイベントを記入したもの。
- 小川らの先行研究では、ライフラインを用いて10代妊婦のストレスフルライフイベントにおける対処方略パターンとその変化を捉えており、その有効性は示されている²³⁾。
- 5) ライフイベント：妊娠や結婚などの大きなイベントと日常的にささいな出来事
 - 6) ストレスフルライフイベント：ライフラインが下がるきっかけになったライフイベント

3. 研究対象

以下の4つの条件を満たし、研究協力が得られた10代妊婦4人を研究対象とした。

- 1) 九州圏内の産婦人科外来で妊婦健診を受診
- 2) 出産を選択した妊娠22週以降の初産婦
- 3) 妊娠が確定した時点で未婚
- 4) 慢性疾患や合併症などハイリスク妊娠ではない

4. データ収集の方法および面接手順

1) データ収集の方法

妊婦の定期健康診査（以下、健診）を通じて、研究協力者や付き添いの家族から不安や悩みなどの相談を受けることでラポールを形成し本音を掴む努力をした。

研究協力者との関係性が深まったと思われる妊娠32～34週と産後の経過が安定した産褥16日～30日に研究者と1対1で面接を2回実施した。面接の日時と場所は施設責任者の協力を得た上で、各研究協力者の希望に従い安全面の確保やプライバシーの保護に留意した。面接時間は1人1回20分～1時間程度実施し、面接時の録音は研究協力者の承諾を得て行った。データ収集期間は平成25年8月から平成25年12月であった。

2) 面接手順

(1) 1回目面接

研究協力者にライフラインの描写後、妊娠月数とライフイベントを記入してもらった。1回目インタビューガイドを用いて、研究協力者に妊娠がわかって現在までの妊娠継続するプロセスについてナラティブ・インタビューを行った。ナラティブ・インタビューはナラティブ・アプローチ（出典：野口裕二²⁵⁾：ナラティブ・アプローチ）を参考にした。1回目インタビューガイドでは「妊娠がわかって現在までに嬉しいまたは辛いと感じた出来事」、「その時の思いや考え」、「学校や職場などの社会や周囲の人々に対する行動」、「行動後の思いや考え」などを例示した。

(2) 面接終了後

面接内容から逐語録を作成して、ライフイベント、心理的側面、社会的対処を一覧表に整理した。他の研究協力者から抽出されたライフイベントを複数の研究者と検討し、2回目インタビューガイドを作成した。

(3) 2回目面接

研究協力者に1回目面接時に描写したライフラインを提示しながら、ライフイベント、妊娠継続するプロセスの要約を伝え、修正や確認を得た。妊娠継続するプロセスを補うため、2回目インタビューガイドを用いて半構成的面接を実施した。

2回目インタビューガイドでは、1回目インタビューでは語られなかった「心理的側面や社会的対処」「ライフラインが動くきっかけになったライフイベント」「妊娠に対するパートナーや親の反応」などを例示した。

面接終了後は研究協力者に同意を得た上で面接時の反応や状況などをフィールドノートに整理した。

5. データ分析の方法

1) ライフイベントの抽出

各研究協力者のデータとライフラインを照合して、「嬉しい」、「辛い」と捉えたライフイベントを類似性で分類し、コード化した。

2) 心理的側面の抽出

ライフイベントごとの心理的側面に関連する記述を抽出し、コード化した。

3) 社会的対処の抽出

ライフイベントごとの社会的対処に関連する記述を抽出し、コード化した。

4) 妊娠を継続するプロセスの抽出

心理的側面と社会的対処のコードを時系列に並べてプロセスを再構成し、カテゴリー化、サブカテゴリー化した。

5) データ分析の信憑性

データ分析の信憑性を確保するために研究協力者にデータの要約や確認を得て、複数の研究者でデータの解釈について検討を重ねた。さらに、分析過程におけるコードやカテゴリーの同質性やネーミングによりデータの真実性が失われていないかを繰り返し検討した。

6. 倫理的配慮

研究協力者に研究目的、意義、方法、協力の任意性、中断の自由性、不利益が生じないこと、守秘義務、個人情報への厳守について文書と口頭で説明し、同意を得て同意書に署名を得た上で面接を実施した。個人情報に記載されているデータは特定されないように匿名化を行い、記録媒体と共に鍵のかかる場所で厳重に保管した。面接内容を含めてすべてのデータは本研究以外に使用せず、研究終了後に破棄した。本研究は、日本赤十字九州国際看護大学の研究倫理審査委員会において倫理審査を受け、承認を得た(承認番号:13-3)。

III 結果

1. 研究協力者の背景

研究協力者は、16歳1名(高校2年生)、19歳3名(高校卒業後)の4名であった(表1)。3名は妊娠後半に入籍し、1名はパートナーの年齢により未入籍であった。4名とも両親の離婚などにより父親が不在であった。パートナーのうち1名は離婚により父親が不在で、1名は離婚により母親が不在であった。

以下、ライフイベントを『 』、心理的側面と社会的対処を〈 〉、妊娠継続するプロセスのカテゴリーを【 】,サブカテゴリーを《 》とした。研究者が状況を説明するために補った言葉には()を用いた。

表1 研究協力者の背景

ID	研究協力者		パートナー	
	年齢	学業・職業	年齢	職業
A氏	16	通信制高校(妊娠末期~休学)	16	会社員
B氏	19	内定取り消し後アルバイト	19	倉庫内作業員
C氏	19	会社員を退職し専業主婦	23	配管工
D氏	19	アルバイト	25	飲食業(店長)

2. A氏のライフイベントと妊娠継続するプロセス

1) A氏のライフイベントとライフライン

A氏のライフイベントは、『妊娠がわかる』『医療者に冷たい態度を取られる』『家族に産むことを反対される』『病院で中絶の予約をする』『医療者に冷たい態度を取られる』『エコーで胎児を見る』『家族に産むことを賛成される』『アルバイトがきつくなる』『胎動を感じる』『安定期に入る』の10件が抽出できた(図1)。ストレスフルライフイベントは、『家族に産むことを反対される』『病院で中絶の予約をする』の2件であり、ライフラインが上がったライフイベントは『エコーで胎児を見る』『家族に産むことを賛成される』『胎動を感じる』『安定期に入る』の4件であった。

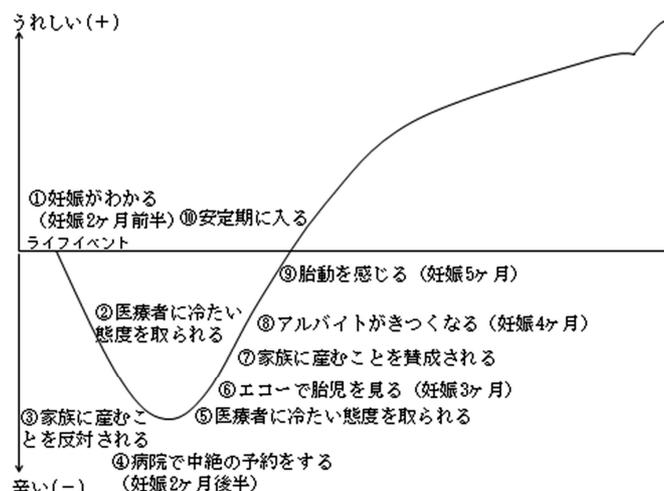


図1 A氏のライフイベント

2) A氏の妊娠継続するプロセスのストーリーライン

A氏は妊娠2ヶ月前半に、月経が遅れて『妊娠がわかる』が、パートナーとともに《予期せぬ妊娠に戸惑いながらも妊娠に向き合う》ことをし、【妊娠を受容する】ことをしていた。産むことを決めてから最初に妹、次に実母、祖父母、パートナーの親に妊娠を告げて、《家族に妊娠の理解を確認する》ことをしていた。初診時に診察を受けた『医療者に冷たい態度を取られる』ことがあり、中絶を前提とした《医療者の態度で

表2 A氏の妊娠継続するプロセス（心理的側面・社会的対処とナラティブの一部）

ライフイベント	妊娠継続するプロセス		心理的側面・社会的対処のコード	ナラティブの一部		
	カテゴリー	サブカテゴリー				
妊娠がわかる	妊娠を受容する	予期せぬ妊娠に戸惑いながらも妊娠に向き合う	妊娠して驚きと不安が混在する パートナーと妊娠を共有する	びっくりした。（中略）不安のがでかい 相手の人に言って。（中略）2人で（産むかを）話した		
		周囲に妊娠継続の理解を求める	妹に妊娠を告げる 実母に妊娠を告げる 実母の予想外の反応に驚く 祖父母に妊娠を告げる パートナーの親に妊娠を告げる	（妹に）「いや、産む」とか言って （私とパートナーは）「産むけ」って言って報告した 最初びっくりして、でもこう後から考えたらあー嬉しい （祖父母とは）仲良んで、すぐ（妊娠を）話した 産むって決めて、（中略）（産むことを）言った		
	医療者に冷たい態度を取られる	医療者の態度で傷つき自分を受け入れてくれる病院を探す	中絶を前提とした医療者の冷たい態度で傷つく	女の先生でちょっと冷たいで、なんか「産むなら8週目までです」、あつとか、見たら、あつもうおろすのとかもさささって言われて傷ついて		
			自分を取り上げた医師の病院に変える	ちょっと遠いけど、そっちのが安心やけってなってこっちに来ました		
家族に産むことを反対される	家族の反対で落胆するが、妹と同じ境遇の友達に支えられ家族に反発する	家族の反対で落ち込む 反対する家族に反論する 妹に相談する 妹に相談して楽になる	中絶を経験のある友達に相談する 中絶を経験のある友達に相談して楽になる	どん底っちなったのは、（家族に）反対されて みんなに（中絶を）言われて、でも「嫌だ」って言って 妹も歳が1こ下なんで、普通に話したりして 言い返せんくらい落ち込んだ時も妹がこう言うってくれたりとかあるんで、なんでうん、そんなん結構助かります （中絶の話）聞けど、悪いことしか入って来ない （友達に）聞いてもらえるだけで気持ちは楽と思って		
		一時妊娠継続を諦める	家族に妊娠継続の諦めを強いられひどく落胆するが、反発し続ける	中絶が決まりどん底まで落ち込む 中絶の同意を拒否する 中絶する覚悟で受診する	（中絶が）決まった時がやっぱり一番ガクンってきました 自分では（中絶の手術同意書に）書かなかったです 手術当日にあたる日に（病院に）行った	
		産む意志を固める	エコーの胎児に愛着をもち、妊娠継続したい気持ちを貫く	エコーを見て中絶したくないと思う	エコー初めてして心臓の音とか聞いたら、もうそんなん聞いてしまったら、もうおろすとか考え、絶対考えられないでそれ（中絶したくないこと）を（お母さんに）言って 産むことを決意する	お母さんも産もうってなって
				産む決断を理解しない医療者の態度で傷つく 産む決断を理解してくれた医療者の態度が嬉しい	（医療者は）「いやでも歳もあれだし」とか感じて、はっ（怒ったように）と思って。「今おろすのも後でおろすのも早い方がいいけ」みたいな（中略）それで傷ついて （院長）先生も産むか産まんか、歳もいろいろあるし、学校もあるし、てなつたときに「一番最初に思ったことがいい」って、「正解、正解はないけど」、それが嬉しかった	彼氏にこう（パートナーの親に産むことを）言ってもらった
エコーで胎児を見る	家族を説得し産むことの理解を得て精神的に安定する	エコーで胎児を見て嬉しい 家族に胎児の動画を見せる 家族の賛成で気持ちが落ち着く	二番（ライブラインが）上がってきたとき エコーの動画のもらったんで、それを見て、みんなにみんな順調に気持ちも全部			
アルバイトがきつくなる	アルバイトで身体的・精神的にきつくなり、周囲に愚痴りながら職場の状況を配慮して続ける	アルバイトでストレスが溜まる 妹にアルバイトのことを愚痴る 職場の状況を配慮してアルバイトを続ける アルバイトを辞める	なかなか辞めさせてもらえないで妊娠しても、週6やつたんですよ、（中略）それ（バイト）がすごいストレスで 妹には「もう（バイトを）辞めたいし」とか言って （バイト先にバイトがきついことは）言えなかったです。はい。一人しかいないんで バイトを辞めて			
		胎動を感じる	胎児の存在を実感して喜び、家族と胎児の存在を共有する	胎動を感じて嬉しい パートナーと胎動を共有する	あつ、（胎児が）おるんやとか思って、嬉しいって 相手（パートナー）には、「動いた」っち言って	
安定期に入る	安定した妊娠生活を送る	精神的に安定する	安定期で気持ちが落ち着く	気持ちも落ち着いてきて		

傷つき自分を受け入れてくれる病院を探す」ことをしていた。その後、最初は妊娠を理解していた実母やパートナーの両親、祖父母の『家族に産むことを反対される』と、「家族の反対で落胆するが、妹と同じ境遇の友達に支えられ家族に反発する」ことをして、【周囲に妊娠継続の理解を求める】ことをしていた。妊娠2ヶ月後半に『病院で中絶の予約をする』が、「家族に妊娠継続の諦めを強いられひどく落胆するが、反発し

続ける」ことをしていた。【一時妊娠継続を諦める】つもりで中絶の当日を迎えたが、胎児心音を聞き「エコーの胎児に愛着をもち、妊娠継続したい気持ちを貫く」と、実母を頼りに【産む意志を固める】ことをしていた。産む決意を告げた時に再度『医療者に冷たい態度を取られる』ことがあり、「産む決断を理解しない医療者に傷つくが、理解してくれた医療者に救われる」ことがあった。健診時に『エコーで胎児を見る』こ

とで嬉しい気持ちになり、胎児の画像を見せることで『家族に産むことを賛成される』と「家族を説得し産むことの理解を得て精神的に安定する」ようになった。妊娠4ヶ月に『アルバイトがきつくなる』ようになり、「アルバイトで身体的・精神的にきつくなり、周囲に愚痴りながら職場の状況を配慮して続ける」が、アルバイトを辞めて、【周囲に再び理解を求めて産むための環境を作る】行動を起こしていた。妊娠5ヶ月に『胎動を感じる』ようになり、「胎児の存在を実感して喜び、家族と胎児の存在を共有する」ことをし、【胎児と向き合う】ことをしていた。『安定期に入る』と「精神的に安定する」ようになり、【安定した妊娠生活を送る】というプロセスを辿っていた(表2)。

3. B氏のライフイベントと妊娠継続するプロセス

1) B氏のライフイベントとライフライン

B氏のライフイベントは、『妊娠がわかる』『パートナーが現実不安を抱く』『パートナーが仕事を続ける』『パートナーが仕事を辞める』『パートナーとケンカする』『胎動を感じる』『パートナーが仕事を探し始める』『パートナーが無気力になる』『パートナーが仕事を始める』『出産が近づく』『入籍する』の11件が抽出できた(図2)。ストレスフルライフイベントは、『パートナーが現実不安を抱く』『パートナーが仕事を辞める』『パートナーとケンカをする』『パートナーが無気力になる』の4件であった。ライフラインが上がったライフイベントは『パートナーが仕事を続ける』『胎動を感じる』『パートナーが仕事を探し始める』『パートナーが仕事を始める』『出産が近づく』『入籍する』の6件であった。

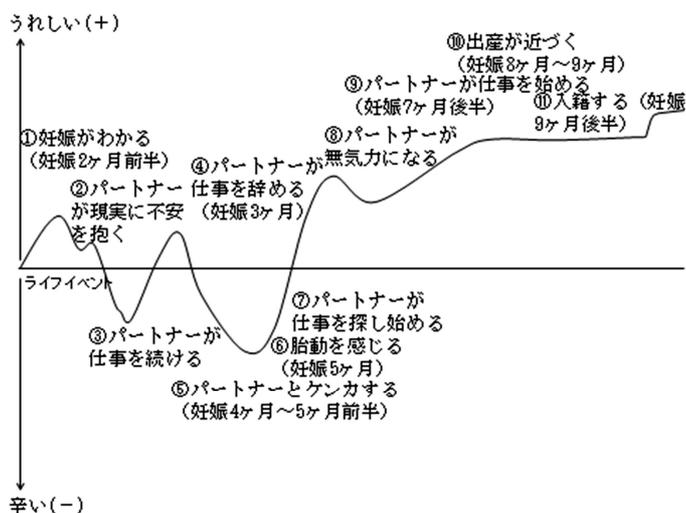


図2 B氏のライフイベント

2) B氏の妊娠継続するプロセスのストーリーライン

B氏は妊娠2ヶ月前半に、就職先の健康診断で『妊娠がわかる』が、パートナーとともに「予期せぬ妊娠に戸惑いながらも妊娠に向き合う」ことをして、少しずつ【妊娠を受容する】ことをしていた。すぐにパートナーの母親、次に実母に妊娠を告げて、「家族に妊娠の理解を確認する」ことをしていた。『パートナーが現実不安を抱く』と、「曖昧な態度を取るパートナーと衝突しながら、妊娠継続するか悩む」ようになり、【周囲に妊娠継続の理解を求める】ことをしていた。『パートナーが仕事を続ける』ことでライフラインは一時上がったが、『パートナーが仕事を辞める』と「パートナーの曖昧な態度が続き、妊娠継続を諦める」ようになり、【一時妊娠継続を諦める】つもりで中絶する覚悟で受診したが、動いている「エコーの胎児に愛着をもち、妊娠継続したい気持ちを貫く」と、実母を頼りに【産む意志を固める】ことをしていた。妊娠4ヶ月に『パートナーとケンカをする』と、「同じ境遇の友達の助言で励まされ、曖昧な態度を取るパートナーと関係続ける」ことをしていた。妊娠5ヶ月に『胎動を感じる』と、「パートナーとの衝突で精神的に追い込まれるが、胎児に支えられる」ことがあった。『パートナーが仕事を探し始める』ことで、少しずつライフラインは上がったが、再び自信を喪失した『パートナーが無気力になる』と、「少しずつ前向きになるパートナーに安心しながら説得し続ける」ことをして、【周囲に再び理解を求めて産むための環境を作る】行動を起こしていた。妊娠7ヶ月後半に『パートナーが仕事を始める』と「パートナーの仕事が安定し、今後の生活に安心する」ようになり、『出産が近づく』と嬉しい気持ちと育児への不安が混在していた。妊娠10ヶ月に、パートナーと『入籍する』ことができ、「パートナーとの入籍を喜ぶ」ようになり、【安定した妊娠生活を送る】というプロセスを辿っていた(表3)。

4. C氏のライフイベントと妊娠継続するプロセス

1) C氏のライフイベントとライフライン

C氏のライフイベントは、『妊娠がわかる』『パートナーの父親に反対される』『パートナーの職場のトラブルに巻き込まれる』『パートナーとケンカする』『パートナーが仕事を辞める』『パートナーが仕事を始める』『胎動を感じる』『出産のことを考える』『パートナーの父親と関係が良くなる』『入籍する』『エコーで胎児を見る』『出産が近づく』の12件が抽出で

表3 B氏の妊娠継続するプロセス（心理的側面・社会的対処とナラティブの一部）

ライフイベント	妊娠継続するプロセス		心理的側面・社会的対処のコード	ナラティブの一部
	カテゴリー	サブカテゴリー		
妊娠がわかる	妊娠を受容する	予期せぬ妊娠に戸惑いながらも妊娠に向き合う	妊娠して嬉しさと不安が混在する パートナーと妊娠を共有する	(赤ちゃんが) いるんだってなんかわかったら、嬉しかった。(中略) ちょっと不安もあった 親に(妊娠したことを) 言わなきゃみたいな感じ
		周囲に妊娠継続の理解を求める	パートナーの親に妊娠を告げる 実母に妊娠を告げる	ちらっと(パートナーがパートナーの母親に) 言って (妊娠を告げた時の実母の反応は) バカじゃないみたいな
パートナーが現実 に不安を抱く		曖昧な態度を取る パートナーと衝突しながら、妊娠継続するか悩む	パートナーと衝突する 実母と衝突する	(パートナーと) ケンカばかりしてました (親とは) ケンカ
			パートナーの支えが嬉しい	あの就職とかもあったんで、産んでいいのかなあみたいな、でも産みたいなあっていう中で、すごい迷ってました そんな(アルバイトをしていた)時はすごいあ、(パートナーが) いいかなと思って嬉しかった
パートナーが仕事を続ける	一時妊娠継続を諦める	パートナーの曖昧な態度が続き、妊娠継続を諦める	中絶する覚悟で受診する	一回やっぱ、ちょっと(産むことを) あきらめるつもりで、病院に行った
パートナーが仕事を辞める			エコーを見て中絶したくないと思う 実母に産みたいと伝える 産むことを決意する	ちょっと動いてたから、もうそれ(胎児のエコー) 見てたら、なんかあー、やっぱ産まなきゃ、産みたいって思ってお母さんにもう「やっぱ産みたいけん」みたいな言った そう(シングルマザーになっても産むつもり) ですね
パートナーとケンカする	周囲に再び理解を求めて産むための環境を作る	同じ境遇の友達の助言で励まされ、曖昧な態度を取る パートナーと関係を続ける	パートナーにイライラする パートナーと衝突する	私もイライラしたりした 一番もう(パートナーと) ぶつかってた
			実母と今後の不安を共有する	もう全く先が見えない感じになってきて、(お母さんと) どうしよっかみたいな、なってた
			シングルマザーの友達に相談する	子どもがいる同い年の子がいて、(中略) 「相手とこのまま付き合いつけてもいいのかな」とか。(中略) 友達にまー「ちょっと待ってみりい」みたいな言われて
			シングルマザーの友達に相談して励まされる	友達に相談することで、やっぱ、あー、頑張ろうって思ったりとか、もう挫けかけてたんで、なんかやっぱ途中 (胎児が) もうボコボコボコボコし始めたら、ほんとに(胎児が) かわいいなって思って それ(胎動) でたいぶ(気持ち) もったようなもんで
パートナーが仕事を 探し始める	安定した妊娠生活を送る	パートナーの仕事が安定し、今後の生活に安心する	パートナーの頑張り で気持ちが落ち着く	(パートナーが) 仕事を探し始めてくれたってことで、こっち(私) も(中略) 心に余裕ができた感じがあった
パートナーが無 気力になる			パートナーにイライラする パートナーを説得する	もうまたそこでイライラして (パートナーを) 説得しながら2人で頑張らんやろってことを言ってた
パートナーが仕事を始める	出産が近づく	パートナーの仕事が安定し、今後の生活に安心する	パートナーが仕事を始めて嬉しい 実母とパートナーの頑張り を共有する	もう嬉しかったです やっど(パートナーの就職が) 決まったよって(お母さんに) 言って
出産が近づく			パートナーの仕事ぶりを安心する 出産が近づいて不安と嬉しさが混在する	良かったなあって安心して。 (出産後) は不安でした。(中略) あー近づいてきたなあとか思ったら嬉しい
入籍する		パートナーとの入籍を喜ぶ	パートナーと入籍して嬉しい	やっど入籍できて家族なれたんで、良かったなあって思いました

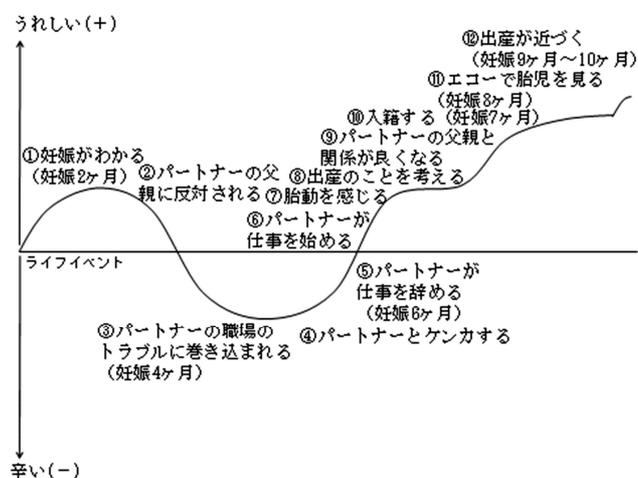


図3 C氏のライフイベント

きた(図3)。ストレスフルライフイベントは、『パートナーの職場のトラブルに巻き込まれる』『パートナーとケンカする』『パートナーが仕事を辞める』の3件であった。ライフラインが上がったライフイベントは『パートナーが仕事を始める』『胎動を感じる』『入籍する』『エコーで胎児を見る』『出産が近づく』の5件であった。

2) C氏の妊娠継続するプロセスのストーリーライン
C氏は妊娠2ヶ月に生理が遅れて『妊娠がわかる』とすぐに病院を受診し、《望んだ妊娠を喜ぶ》ようになり、パートナーと産むことを話し合い、【妊娠を受容する】ことをしていた。入社して4日目で退職し、最初に姉、次に実母、パートナーの父親に妊娠を告げ

表4 C氏の妊娠継続するプロセス（心理的側面・社会的対処とナラティブの一部）

ライフイベント	妊娠継続するプロセス		心理的側面・社会的対処のコード	ナラティブの一部
	カテゴリー	サブカテゴリー		
妊娠がわかる	妊娠を受容する	望んだ妊娠を喜ぶ	妊娠して嬉しい パートナーと妊娠を共有する	早く妊娠したいって思ってた。(中略)とりあえず嬉しい その(妊娠した)ことだけ(パートナーに)言っ
	周囲に妊娠継続の理解を求める	家族に妊娠の理解を確認する	仕事を辞める 姉に妊娠を告げる 実母に妊娠を告げる 実母の予想外の反応に驚く パートナーの親に妊娠を告げる	会社に報告したら、(中略)辞めざるを得なくなって お母さんに話す前に、私のお姉ちゃんに話して 「実は妊娠したけん」って(お母さんに)言った (お母さんが)「どんな反応するんだろうとか (パートナーの父親に)報告しに行った
パートナーの父親に反対される		実母の理解を頼りにパートナーの父親を見切る	パートナーの父親の態度が悲しい 実母に妊娠の理解を得て安心する	(パートナーの父親は)あんまり受け入れたくない的な。 (中略)(その)態度はちょっと悲しかった お母さんはもうオッケーもらったからそっちの方が安心だし。 (中略)旦那の(父親の)方は別不安とかはなくて。
パートナーの職場のトラブルに巻き込まれる	パートナーとの生活を整えるために問題を解決する	パートナーの職場のトラブルで精神的に追い込まれるが、実母に支えられる	パートナーの職場に不信感を抱く 経済面で不安に思う パートナーを説得する パートナーの職場の社長に交渉する 職場のトラブルで精神的にきつくなる 実母に相談する 実母に相談して楽になる パートナーの父親に相談する パートナーの親に相談して安心する	その会社に対して不信感しかなくて この給料でずっと続くんだったら生活できないし、私も働いてないから、ちょっとお金はちょっと心配で 「(仕事を)辞めて」で私が(パートナーに)伝えて。 (社長に)言ったんですけど、(中略)社長がなんかすごく怒って その時の会社のトラブルで結構きつかった (職場のトラブルを)私のお母さんの方に相談した (実母に相談して)結構楽になったりとかした 旦那のお父さんが会社をもってるから、(中略)(パートナーは父親に)そっちにおいでって言われてる 辞めた後の先のことは安心できた
パートナーとケンカする		パートナーとの衝突で精神的に追い込まれ、パートナーと距離を置く	パートナーと衝突する パートナーと衝突してストレスを発散する パートナーに不信感を抱く 一時パートナーと距離を置く	もうこう(言いたいことを)言ってぶつかり合いだった (パートナーに言って)ストレス発散っていうか (パートナーは私を)かばってくれなかったから、不信感がつのっていきました、その頃は 実家に帰ったりとか、もう(パートナーと)話したくない
パートナーが仕事を始める	安定した妊娠生活を送る	パートナーの仕事が安定し、今後の生活に安心する	経済面で安心する パートナーの仕事ぶりに安心する	給料もちゃんと入るからもう全然心配はなくなりました (パートナーは仕事を)頑張ってるんだっていう、安心してる
胎動を感じる	胎児と向き合う	胎児の存在を実感して喜び、家族と胎児の存在を共有する	胎動を感じて嬉しい 実母や妹と胎動を共有する	早くちょっとみんなにも(胎動を)感じてもらいたくなって嬉しかった 姉と母に胎動、もしかしたら胎動、んー赤ちゃん動いたあって、感じてメールっていうか連絡して
出産のことを考える		出産に不安になり出産経験のある友達から情報を得る	出産を不安に思う 出産経験のある友達に相談する	いろいろ不安でした、少し。(中略)アドバイスもらったけど、ちょっとまた更に不安が出てきた 姉の方の同級生が結構、もうお母さんになってる人が多かったから、(中略)いろいろ話は聞いて
パートナーの父親と関係が良くなる		パートナーの父親に理解を得てパートナーとの入籍を喜ぶ	パートナーの父親の優しい態度が嬉しい 入籍して嬉しい	(義父の態度が)最初の頃と180度態度が違うくて。(中略)もう嬉しかった 指輪とかも買ってもらって、なんかラッキーみたいな
エコーで胎児を見る		安心できる医療者と接しながら、胎児の成長を楽しみに健診を受ける	エコーで胎児を見て嬉しい 病院スタッフに安心する	赤ちゃんの姿見れるのが一番嬉しかったですね ここのスタッフみんないい人だからすごいなって、ま、安心できるなって感じす
出産が近づく	出産に向けて準備をする	子どもや出産のことを考えて楽しむ	出産が近づいて嬉しい 出産の準備をする 実母の協力的な態度が嬉しい 家族と過ごし出産に備える	それ(赤ちゃんや出産のことを)考えてるうちはもうすごく楽しいし、ワクワクしてるし 赤ちゃんの準備もいるし、入院の準備とかも (お母さんが)毎日なんか「これどう?」とかそんなん言ってきて、そういう(母親の)姿が嬉しくて 実家の方に帰って母と生活して、夕方まで。(中略)誰か家にいたりするんで、10ヶ月はそうやって過ごしてました

て、「家族に妊娠の理解を確認する」ことをしていた。『パートナーの父親に反対される』が、「実母の理解を頼りにパートナーの父親を見切る」ことをし、【周囲に妊娠継続の理解を求める】ことをしていた。妊娠4ヶ月に『パートナーの職場のトラブルに巻き込まれる』ことがあり、「パートナーの職場のトラブルで精神的

に追い込まれるが、実母に支えられる」ことがあった。パートナーが早く仕事を辞めるように説得する中で、『パートナーとケンカする』ようになった。『パートナーが仕事を辞める』時、パートナーに不信感を抱き、「パートナーとの衝突で精神的に追い込まれ、パートナーと距離を置く」ことをし、【パートナーとの生活を

整えるために問題を解決する】行動を起こしていた。妊娠6ヶ月に『パートナーが仕事を始める』と、「パートナーの仕事が安定し、今後の生活に安心する」ようになり、【安定した妊娠生活を送る】ことができていた。『胎動を感じる』と「胎児の存在を実感して喜び、家族と胎児の存在を共有する」ことをしていた。『出産のことを考える』ようになり、「出産に不安になり出産経験のある友達から情報を得る」ことをしていた。徐々に『パートナーの父親と関係が良くなる』状況になり、パートナーと『入籍する』と、「パートナーの父親に理解を得てパートナーとの入籍を喜ぶ」ようになった。妊娠8ヶ月に『エコーで胎児を見る』と嬉しい気持ちになり、「安心できる医療者と接しながら、胎児の成長を楽しみに健診を受ける」ことをして、【胎児と向き合う】ことをしていた。妊娠9ヶ月に、『出産が近づく』と嬉しい気持ちになり、「子どもや出産のことを考えて楽しむ」ようになり、【出産に向けて準備をする】というプロセスを辿っていた（表4）。

5. D氏のライフイベントと妊娠継続するプロセス

1) D氏のライフイベントとライフライン

D氏のライフイベントは、『妊娠がわかる』『流産したときと同じ症状が出る』『つわりがひどくなる』『アルバイトがきつくなる』『パートナーとケンカする』『つわりがおさまる』『親同士で挨拶をする』『入籍する』『出産が近づく』の9件が抽出できた（図4）。ストレスフルライフイベントは『つわりがひどくなる』『アルバイトがきつくなる』『パートナーとケンカする』の3件であった。ライフラインが上がったライフイベントは『つわりがおさまる』『入籍する』『出産が近づく』の3件であった。

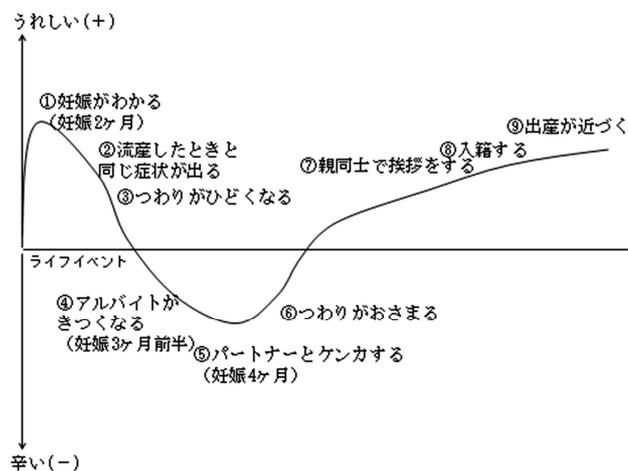


図4 D氏のライフイベント

2) D氏の妊娠継続するプロセスのストーリーライン

妊娠2ヶ月に、生理が遅れて『妊娠がわかる』が、「望んだ妊娠を喜ぶ」ようになり、【妊娠を受容する】ことをしていた。1年前に自然流産した時に家族に妊娠の理解を得ていたD氏は、「家族に妊娠を報告する」ことをして、【周囲に妊娠継続の理解を求める】ことをしていた。『流産したときと同じ症状が出る』と、「流産の兆候で不安になり実母に相談する」ことをしていた。徐々に『つわりがひどくなる』と、「つわりで身体的・精神的にきつくなるが、パートナーに支えられる」ようになった。妊娠3ヶ月に『アルバイトがきつくなる』と、「アルバイトで身体的・精神的にきつくなり、周囲に愚痴りながら職場の状況を配慮して続ける」が、アルバイトを辞めて、【マイナートラブルを対処する】ことをしていた。妊娠4ヶ月に、ほぼ毎日『パートナーとケンカする』と、「パートナーとの衝突で精神的に追い込まれるが、友達に支えられる」ようになり、【パートナーとの生活を整えるために問題を解決する】ことをしていた。『つわりがおさまる』と「精神的に安定する」ようになった。『入籍する』前に『親同士で挨拶をする』が、「祖父に理解を得てパートナーとの入籍を喜ぶ」ようになり、【安定した妊娠生活を送る】ようになった。『出産が近づく』と、「子どもや出産のことを考えて楽しむ」ようになり、【出産に向けて準備をする】というプロセスを辿っていた（表5）。

6. 共通したライフイベント

4人のライフラインは共通して妊娠前半にピークまで下がり、妊娠後半から出産まで徐々に上がっていた。4人に共通したライフイベントは、『妊娠がわかる』のみであった。2人以上に共通したライフイベントは、『パートナーとケンカする』『胎動を感じる』『入籍する』『出産が近づく』『アルバイトがきつくなる』『エコーで胎児を見る』『パートナーが仕事を辞める』『パートナーが仕事を始める』の8件のみであった。それぞれ独自のライフイベントは、A氏は『家族に産むことを反対される』など6件、B氏は『パートナーが現実不安を抱く』など4件、C氏は『パートナーの職場のトラブルに巻き込まれる』など4件、D氏は『つわりがひどくなる』など4件が抽出できた。2人以上に共通したストレスフルライフイベントは、『パートナーが仕事を辞める』『パートナーとケンカする』の2件であった。2人以上に共通してライフラインが

表5 D氏の妊娠継続するプロセス（心理的側面・社会的対処とナラティブの一部）

ライフイベント	妊娠継続するプロセス		心理的側面・社会的対処のコード	ナラティブの一部
	カテゴリー	サブカテゴリー		
妊娠がわかる	妊娠を受容する	望んだ妊娠を喜ぶ	妊娠して嬉しい パートナーと妊娠を共有する	(私もパートナーも) どちらも、嬉しかった (パートナー) は、(妊娠反応を) 一緒に調べた
	周囲に妊娠継続の理解を求める	家族に妊娠を報告する	実母に妊娠を告げる パートナーの親に妊娠を告げる 祖母に妊娠を告げる	(実母に) また(子どもが) できたよ、みたいな感じで 多分すぐ(パートナーの両親には) 言ったと思います。 (自分から) も(祖母に) 言った
流産したときと同じ症状が出る	マイナートラブルを対処する	流産の兆候で不安になり実母に相談する	腹痛で恐怖を感じる 実母に相談する 胎児が順調で安心する	すごい怖かったっていうか、その1回目の時がそのお腹痛くなって、その次の日に流れたから (母) 親に電話して、うん、で、病院行く? みたいになっただけ、結局、時間外で行かんで (健診で胎児が無事で) 良かった
つわりがひどくなる		つわりで身体的・精神的にきつくなるが、パートナーに支えられる	パートナーの気遣いが嬉しい パートナーに相談する つわりを解消できる物を食べる つわり症状が出ない乗り物に変える	(パートナーは) 結構適当な人かと思っちゃったから、意外な感じで、うん、嬉しかった 結構(パートナーにつわりがきついいことを) 言ってる 相手(パートナー) もなんかいろいろ調べて、なんか餡とか買ってきてくれたり、でも全然効かんくて バス乗った時に吐きそうってなった時があって、その時は途中で(バスを) 降りて、そこから地下鉄の方に乗った
アルバイトがきつくなる		アルバイトで身体的・精神的にきつくなり、周囲に愚痴りながら職場の状況を配慮して続ける	職場に迷惑を掛けて落ち込む 流産しないようにプレッシャーを感じる 友達にアルバイトのことを愚痴る 友達に愚痴って楽になる 職場の状況を配慮してアルバイトを続ける アルバイトを辞める 人と会わなくなり落ち込む 新しいアルバイトを探す	職場の人に迷惑かなとかめっちゃ考える時とかもあって、でなんかそうやって落ち込むばかりやった 気づってもらおう分、その1回目の(妊娠の) 時みたいにならないようにプレッシャーみたいなのもあって 常になんかそこら辺にいる人に愚痴ってて 軽くなる (バイトを辞めるのを) 早めようかなとも思ったけど、辞めれんまま、けど人が足りなくて全然 3月いっぱい(アルバイトを) 辞めた (バイトを) 辞めて、その会う人があんまおらんくなった 妊娠しちゃうって先に言っちゃったら、やっぱ断られちゃって
パートナーとケンカする	パートナーとの生活を整えるために問題を解決する	パートナーとの衝突で精神的に追い込まれるが、友達に支えられる	パートナーと衝突する つわりでイライラする 入籍しないパートナーを不安に思う 友達にパートナーのことを愚痴る	すぐ飛び出したりとか。(中略) 何回(私が) 飛び出しても、何時でも(パートナーは) 追いかけてきてくれたけど。(中略) 朝方仲直りするみたいなの 毎日毎日すごい不機嫌やけん、向こうもイライラしてって 子どもの親になる気あるとかいなみたいな、何で籍入れんのやろってずっと思いついて 地元から遠いから会って話すこととかはなくて電話。(中略) 職場の仲良い人とかにずっと愚痴りよった
つわりがおさまる	安定した妊娠生活を送る	精神的に安定する	気持ち落ち着く 新しいアルバイトを始める	気分良くなったっていうか、どんどん落ち着いてきて 仕事変えた
親同士で挨拶をする		祖父に理解を得てパートナーとの入籍を喜ぶ	祖父に妊娠を告げる 家族に入籍することを告げる 入籍して嬉しい	(妊娠を告げた時、祖父は) 素っ気ない感じやったんですけど、内心はなんか焦っちゃったらしい 報告は(集まった時に) そうですね。友達にも言っちゃって ホッとしたし、ま、嬉しかったし
入籍する				
出産が近づく	出産に向けて準備をする	子どもや出産のことを考えて楽しむ 同じ境遇の友達と情報交換する	出産が近づいて嬉しい 同じ境遇の友達と情報交換する	産まれてくる時のことを考えて何かをしよう時が一番楽しい 臨月に入ったぐらいから、よく連絡取るようになって。(中略) 不安なことがあった時にこう照らし合わせる

上がったライフイベントは、『エコーで胎児を見る』『胎動を感じる』『パートナーが仕事を始める』『入籍する』『出産が近づく』の5件であった。

IV 考察

1. 10代妊婦におけるライフイベントの多様性と個別の支援の必要性

4人に共通したライフイベントは、『妊娠がわかる』のみであり、2人以上に共通したストレスフルなライフイベントは、パートナーに関するものであった。小川らは10代妊婦にとって「妊娠に対するパートナーの曖昧な態度」がストレスフルなライフイベントである²³⁾

ことを報告している。4人のライフラインは共通して妊娠前半にピークまで下がったことから、10代妊婦にとって妊娠前半にパートナーとの関係性やパートナーの態度がストレスフルなライフイベントになり得ることが、本研究から再確認できた。一人ひとりに独自にあらわれるライフイベントは、それぞれ4件から6件と多く、10代妊婦の妊娠継続するプロセスを構成するライフイベントは多様性に富むことが明らかとなった。したがって、10代妊婦のライフイベントは個別性が強いことから、4人のそれぞれの妊娠継続するプロセスについて考察することとする。

2. 家族に一時妊娠継続を反対されるが、妹や友達に支えられ、確固たる決意で家族に妊娠継続の理解を得る—A氏の妊娠継続するプロセス—

予期せぬ妊娠をした10代妊婦は、妊娠を長期間否認する傾向がみられ、特にパートナーと共に高校に在学中のケースでは、問題解決力の乏しさや未就労による経済的問題や両家の親の同意の得にくさなどの諸要因が関連している²³⁾と報告されている。A氏が「予期せぬ妊娠に戸惑いながらも妊娠に向き合う」ことができた理由は、パートナーが仕事をしていて経済的問題がないことが考えられる。A氏はパートナーと約3年間の交際歴があり、最初にパートナーに妊娠を告げていた。10代女性は妊娠確定後、最初に相談した人はパートナーが6割を超え²⁾³⁾、パートナーとの交際期間が比較的長いものは妊娠を最初にパートナーに報告する²⁶⁾ことが本研究からも再確認できた。

【周囲に妊娠継続の理解を求める】ことをして、相談しやすい実母に妊娠を告げた。実母と不仲な10代妊婦は、妊娠発覚時には実母に告げない方略パターンを取っており、実母への妊娠の告知をストレスフルとして捉えている²³⁾ことが報告されている。10代妊婦は、実母との関係が良好で相談しやすい場合には、実母の反応に不安を抱きつつも早期に実母に妊娠を告げることが、本研究からも再確認できた。

「医療者の態度で傷つき自分を受け入れてくれる病院を探す」ことをしていた。10代妊婦が医療者の中絶を前提とした対応に傷つき、基本的な信頼関係の築き方すら実践されていない臨床現場の実態がある²⁷⁾背景には、10代女性の6割強が人工妊娠中絶を選択する²⁸⁾実態が影響していると考えられる。10代妊婦は、医療者の否定的な態度により受診先の病院を変更する²⁹⁾ことが、本研究からも再確認できた。

「家族の反対で落胆するが、妹と同じ境遇の友達に支えられ家族に反発する」ことをしていた。10代女性は両親やパートナーなどの圧力によって、やむなく中絶の決定に至ることも多い²⁹⁾。家族の反対により10代妊婦は、妊娠継続が困難になり精神的に追い込まれることが、本研究からも再確認できた。また、実母や家族、とくに姉妹のかかわり方が10代の母親の出産と子育てに大きな影響を与える³⁰⁾と言われている。熟練支援者の若年母のアセスメントの視点⁶⁾には、きょうだいの年齢や同居の有無、現在の関係性などが含まれている。先行研究では、きょうだいが10代妊婦に及ぼす精神的影響については報告されていないが、きょう

だいの妊娠継続の理解は、10代妊婦にとって精神的支えになることが、本研究からは明らかとなった。さらに、A氏のように中絶体験を聞いて産む決意を固める事例²³⁾や妊娠中は人工妊娠中絶経験のある友達からの精神的な支援により、10代妊婦がより肯定的な認知的評価をする³¹⁾ことが報告されている。10代妊婦は中絶経験のある友達から精神的に支えられて産む決意を固めることが、本研究からも再確認できた。

「家族に妊娠継続の諦めを強いられひどく落胆するが、反発し続ける」が、【一時妊娠継続を諦める】行動を起こしていた。10代妊婦は、親などの周囲とぶつかり「私は産みたかったのに、親におろさせられた」という傷が残る事例が多い³²⁾と報告されている。A氏は中絶するのは仕方がないと諦めたが、産みたい気持ちが尊重されず、後悔や家族への反発心が残ることが懸念された。中絶の当日に「エコーの胎児に愛着をもち、妊娠継続したい気持ちを貫く」ことで、【産む意志を固める】ことをしていた。受診時に超音波画像に映った胎児に愛着をもち、産むことを決意するに至っていることや実母を頼りに産み育てるポジティブな決意をもたらしており、実母が10代妊婦にとって最良のキーパーソンである²³⁾ことが、本研究からも再確認できた。

「家族を説得し産むことの理解を得て精神的に安定する」ことから、家族の理解は10代妊婦にとって妊娠継続する上で精神的にも必要不可欠であると考えられる。

「アルバイトで身体的・精神的にきつくなり、周囲に愚痴りながら職場の状況を配慮して続ける」ことをしていた。10代妊婦は妊娠中に、就労との両立困難を感じ、仕事を辞める・変えるなど妊娠のための就業の軽減を余儀なくされている²²⁾が、医療者には相談しない実態が、本研究からは明らかとなった。10代妊婦は、家族に妊娠を反対された場合、理解を得るためのプロセスに様々な葛藤をして妊娠継続していくと考えられる。

3. パートナーの曖昧な態度や不安定な仕事で一時妊娠継続を諦めるが、パートナーを説得し続けて妊娠の理解を得る—B氏の妊娠継続するプロセス—

B氏は「予期せぬ妊娠に戸惑いながらも妊娠に向き合う」ことをし、妊娠して不安を抱いていた。10代妊婦は喜びと不安が混在しており、とくに経済的なこと、学業のこと、自分の将来に対する不安が根底にある²²⁾ことが考えられる。10代妊婦は予想外に妊娠が判明し不安を抱える²²⁾ことが、本研究からも再確認できた。

《パートナーの曖昧な態度が続き、妊娠継続を諦める》ことに至っている。パートナーの温かい受け入れが、妊娠継続を決意させる大きな要素となっている²⁷⁾ことが、本研究からも再確認できた。

《エコーの胎児に愛着をもち、妊娠継続したい気持ちを貫く》ことをしていた。10代妊婦は、パートナーとの関係よりも、自分の体の中に子どもがいるという身体感覚を優先し、出産を選択しており³³⁾、入籍出来なくても、妊娠を継続して出産する決意をする²⁷⁾ことが、本研究からも再確認できた。

小川らは、親になる自信のないパートナーのことを人工妊娠中絶経験のある親友に相談しており、似た体験をもつ友人に話す対処で安心を求める²³⁾ことを報告している。パートナーと別れるかどうかをシングルマザーの友達に相談したという事例は報告されていないが、シングルマザーで出産した《同じ境遇の友達の助言で励まされ、曖昧な態度を取るパートナーと関係を続ける》ことが、本研究からは明らかとなった。

《パートナーとの衝突で精神的に追い込まれるが、胎児に支えられる》ことがあった。10代妊婦は、ストレスフルなイベントにおいて胎児の存在が精神的な支えになることが、本研究では明らかになった。

《少しずつ前向きになるパートナーに安心しながら説得し続ける》ことをしていたが、パートナーの態度に苛立ち、パートナーを何度も説得する²³⁾ことが、本研究からも再確認できた。《パートナーの仕事が安定し、今後の生活に安心する》ようになり、《パートナーとの入籍を喜ぶ》ことができた。10代妊婦は、妊娠継続の迷い、育児や将来の不安、パートナーが無職か不安定な仕事により心理的・経済的問題も多く³⁴⁾、パートナーの安定した仕事で10代妊婦の精神的・経済的支えになることが、本研究からも再確認できた。10代妊婦は、パートナーの曖昧な態度や不安定な仕事の場合、パートナーを説得するためのプロセスに様々な葛藤をして妊娠継続していくと考えられる。

4. パートナーの職場のトラブルで一時精神的・経済的問題を抱えるが、実母に支えられながらトラブルを解決する—C氏の妊娠継続するプロセス—

C氏は《望んだ妊娠を喜ぶ》ことができた。妊娠と言われた時の気持ちの調査³⁾では、未婚者では「ショックだった」が5割強、「嬉しかった」が3割強である。未婚者は妊娠を肯定的に受け止めにくいことが言えるが、望んだ妊娠であれば妊娠を肯定的に捉えるこ

とができると考えられる。

10代妊婦は、実母を頼りに産む決意が固まると、パートナーの親に接近するパターンに変化し、パートナーの親に好印象を得ようふるまう³²⁾が、C氏のように《実母の理解を頼りにパートナーの父親を見切る》ことが、本研究からは明らかになった。

《パートナーの職場のトラブルで精神的に追い込まれるが、実母に支えられる》ことがあったが、10代妊婦は、実母の励ましを得ることで当面の安定を得るパターンに好転する³²⁾ことが報告されている。ストレスフルなイベントにおいて、10代妊婦が実母に支えられることが、本研究からも再確認できた。

10代妊婦は「パートナーや義母との食い違い」というストレスフルなイベントにおいて、「パートナーを諦める」「やむを得ず別居する」対処をする³²⁾ことが報告されている。10代妊婦は、《パートナーとの衝突で精神的に追い込まれ、パートナーと距離を置く》ことが、本研究からも再確認できた。

《胎児の存在を実感して喜び、家族と胎児の存在を共有する》ことをしていた。妊婦は胎児が家族に受け入れられることを求め、それにより胎児に深いきずなを形成し、胎児が存在する意味を探し求める²⁹⁾。10代妊婦は、超音波を見たり胎動を自覚したりすることはわが子の存在を体感することにつながり、児への愛情が増す³¹⁾ことや家族に胎児を受け入れてもらうよう求めることが、本研究からも再確認できた。

若年初産婦は思いを共有・共感できる自分と同じ立場にある子どもを育てている同世代の友達を求めており³⁴⁾、《出産に不安になり出産経験のある友達から情報を得る》ことが本研究からも再確認できた。

《子どもや出産のことを考えて楽しむ》ようになった。若年初産婦にとって、パートナーや特に家族の心理的・経済的・育児行動への支援は必要不可欠なものであり、家族の支援のあり方で、親として大人としての成長に大きく差がつくため、そのための働きかけは、妊娠中に行えることが望ましい³⁵⁾と言われている。10代妊婦は望んだ妊娠で家族の理解を得ることができた場合、パートナーの職場のトラブルによる経済的問題を解決するためのプロセスに様々な葛藤をして妊娠継続していくと考えられる。

5. つわりで身体的・精神的にきつくなり、友達に支えられパートナーと衝突しながら、つわりを対処する—D氏の妊娠継続するプロセス—

D氏は1年前に自然流産して、家族に妊娠の理解を得ていたため、今回も「望んだ妊娠を喜ぶ」ことができ、「家族に妊娠を報告する」ことをしていた。

腹痛など「流産の兆候で不安になり実母に相談する」ことがあったが、流産経験のある場合、妊娠初期に腹痛など流産の症状に恐怖を抱くことは当然であると考える。また、10代妊婦は「つわりで身体的にも辛い体験をしている²⁷⁾が、パートナーが話を聞いてくれたり、つわりの対処方法を教えてくれたりした事例¹⁴⁾が報告されている。10代妊婦は「つわりで身体的・精神的にきつくなるが、パートナーに支えられる」ことが、本研究からも再確認できた。

「パートナーとの衝突で精神的に追い込まれるが、友達に支えられる」ことがあった。10代妊婦は、妊婦としての生活は暇で退屈であると述べたが、これは同世代の友人との付き合いが少なくなり、周りに似たような10代妊婦もいないことも原因であること⁸⁾や同世代の友達とは話が合わずに、家族の問題を話す相手にはならない³⁶⁾ことが報告されている。10代妊婦は、一般的に同世代の友達とは交流がなくなり孤立する中で、自ら友人と連絡を取り、パートナーといった家族のことを話すことが、本研究からは明らかになった。

D氏は同じ境遇の友達と出産前後に情報交換していたが、若年母の友人がいる場合には、育児に関する相談や情報交換などが行えるが、時に誤った情報であったりすることも多い⁶⁾と言われている。10代妊婦は、疑問があっても医療者に相談せずに、ピア同士で疑問を共有したまま解決できない可能性がある。10代妊婦は家族に妊娠を理解されている場合、つわりなどマイナートラブルを解決するためのプロセスに様々な葛藤をして妊娠継続していくと考えられる。

10代妊婦のライフイベントは多様性に富んでおり、妊娠継続するプロセスは個別性が強いことから、10代妊婦を共通した方法ではなく個別的に支援することが望ましいことが示唆された。

V 結論

10代妊婦の妊娠継続するプロセスを検討した結果、以下の結論が得られた。

1. 妊娠継続するプロセスにおいて4人に共通するライフイベントは『妊娠がわかる』のみで、1人ひとりのライフイベントは多様性に富んでいた。
2. 4人のライフラインは共通して妊娠前半にピーク

まで下がり、妊娠後半から出産まで徐々に上がっていた。2人以上に共通したストレスフルライフイベントは、パートナーに関することであり、10代妊婦は妊娠前半にパートナーとの関係性やパートナーの曖昧な態度によって精神的にきつくなっていた。

3. 10代妊婦それぞれが、家族に妊娠継続を反対された場合に妊娠継続の理解を得るためのプロセス、パートナーの曖昧な態度や不安定な仕事の場合にパートナーを説得するためのプロセス、望んだ妊娠で家族に妊娠継続の理解を得ることができた場合にパートナーの職場のトラブルによる経済的問題を解決するためのプロセス、家族に妊娠を理解されている場合につわりによるマイナートラブルを対処するプロセスにおいて、様々な葛藤をして妊娠継続していくことが示唆された。

VI 研究の限界と今後の課題

本研究では、10代妊婦1人ひとりの妊娠継続するプロセスを分析することを目的としたため、4例とサンプル数が少なく、プロセスにおけるライフイベントも多様であったため、4人の共通点の一般化には限界がある。また、面接を妊娠後期と産後1ヶ月以内に設定していたため、妊娠初期の記憶が曖昧となり、データの確実性にはやや欠けることは否めない。さらに、本研究に協力することができなかった10代妊婦は、今回の得られた結果以上に人には言えない複雑な背景や問題が潜む可能性もある。今後の課題としては、妊娠初期から継続的に追跡していく必要がある。

謝辞

本研究に快くご協力くださいました10代妊婦の皆様と、施設責任者およびスタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。御助言を賜りました安田女子大学の洲崎好香准教授に、心より御礼申し上げます。

なお、本研究は、平成25年度日本赤十字九州国際看護大学の修士論文の一部に、加筆修正したものである。

受付	2014. 7. 29
採用	2014. 11. 20

文献

- 1) 母子衛生研究会：母子保健の主なる統計：母子保健事業団。42-52，東京，2006。
- 2) 玉田太郎，佐藤恒治，片桐清一，他：小児・思春期問題委員会報告。日本産婦人科科学会雑誌，42

- (4) : 399-408, 1990.
- 3) 廣井雅彦, 矢内原巧, 玉舎輝彦, 他: 生殖・内分泌委員会報告 : わが国における思春期妊娠第4回調査報告. 日本産婦人科学会誌, 49 (9) : 763-778, 1997.
 - 4) 村山陵子, 鈴木幸子, 今井充子, 他: 文献にみる10代女性の妊娠・出産の支援の動向と課題. 思春期学, 23 (1) : 179-189, 2005.
 - 5) 小川久貴子, 恵美須文枝: 若年母のアセスメント—熟練支援者の視点から—. 思春期学, 25 (4) : 401-410, 2007.
 - 6) 大臣官房統計情報部人口動態・保健統計課: 平成23年人口動態調査. 上巻出生 第4.6表母の年齢別にみた年次別出生数・百分率及び出生率(女性人口千対), 2011.
 - 7) 町浦美智子: 社会的な視点からみた十代妊娠—十代妊婦への面接調査から—. 母性衛生, 41 (1) : 24-31, 2000.
 - 8) 町浦美智子: 十代妊婦の主観的経験—妊婦としての生活の受け入れ—. 思春期学, 17 (2) : 240-245, 1999.
 - 9) 早乙女智子: 若年妊娠、性逸脱行動—子どもの発育・発達と病気; 子どもを見守り、助ける. からだの科学, 272: 148-152, 2012.
 - 10) 厚生労働省大臣官房統計情報部: 平成22年度「出生に関する統計の概況」—人口動態統計特殊報告, 2010.
 - 11) 小笠原敏浩, 利部正裕: 岩手県における10代の妊娠と人工妊娠中絶の実態調査. 岩手県立病院医学会雑誌, 43 (2) : 133-139, 2003.
 - 12) 小川久貴子, 安達久美子, 恵美須文枝: 10代妊婦に関する研究内容の分析と今後の課題 1990年から2005年の国内文献の調査から. 日本助産学会誌, 20 (2) : 50-63, 2006.
 - 13) 松岡恵: 母親になる過程を支えるための助産婦の役割. 周産期医学, 32 (1) : 107-110, 2002.
 - 14) 藤村博恵, 峯馨, 畠中佳織, 他: 妊娠先行型結婚で出産を経験した学生の妊娠期の心理・社会的特徴. 母性衛生, 48 (4) : 428-435, 2008.
 - 15) 安達久美子, 恵美須文枝, 小川久貴子: 統計からみた10代の女性の出産. 日本助産学会誌, 24 (2) : 407-414, 2006.
 - 16) 大臣官房統計情報部人口動態・保健統計課: 平成23年人口動態調査. 上巻出生 第4.31表母の年齢年次別にみた摘出でない子の出生数及び割合, 2011.
 - 17) 国立社会保障・人口問題研究所: 一般人口統計—人口統計資料集(2012年版) 表6-11性、年齢(5歳階級)別有配偶者に対する離婚, 1930~2010, 2012.
 - 18) 安達久美子: わが国の10代出産の動向と諸外国の現状. 思春期学, 26 (1) : 123-128, 2008.
 - 19) リウ真田知子: 若年出産者への保健指導 助産師のための退院指導マニュアル. ペリネイタル・ケア新春増刊, 197-208, 1998.
 - 20) 西村正子, 鈴木康江, 佐々木くみ子, 他: 十代の妊婦・産婦・褥婦に対するサポート体制の強化. 母性衛生, 46 (1) : 179-184, 2005.
 - 21) 赤井由紀子, 松嶋紀子: 十代妊婦の支援体制への課題. 川崎医療福祉学会誌, 20 (1) : 243-247, 2010.
 - 22) 砂川公美子, 田中満由美: 10代で妊娠をした女性が自身の妊娠に適応していくプロセス. 母性衛生, 53 (2) : 250-258, 2012.
 - 23) 小川久貴子, 恵美須文枝, 安達久美子: 若年妊婦のストレスフルライフイベントにおける対処方略パターンとその変化. 日本保健科学学会誌, 12 (2) : 77-90, 2009.
 - 24) 小川久貴子, 恵美須文枝, 安達久美子: 10代妊婦に関する研究の動向 1990年から2004年の国内文献のエビデンスレベル. 日本助産学会誌, 19 (1) : 17-29, 2007.
 - 25) 野口裕二: ナラティブ・アプローチ. 99-117, 東京, 頸草書房, 2009.
 - 26) 岸田泰子: 若年者の人工妊娠中絶前後に必要なとされる援助に関する一考察. 思春期学, 20 (2) : 266-272, 2002.
 - 27) 小川久貴子, 安達久美子, 恵美須文枝: 10代女性が妊娠を継続するに至った体験. 日本助産学会誌, 21 (1) : 52-59, 2006.
 - 28) 海野信也: 〈特集II〉10代出産をめぐる諸問題 周産期医療からみた10代出産. 思春期学, 26 (1) : 146-149, 2008.
 - 29) 小川久貴子, 清水千春, 柳澤陽香, 他: 10代の支援プログラムの作成. 助産雑誌, 61 (10) : 878-883, 2007.
 - 30) East, P. L., Reyes, B. T., Horn, E. J. : Association between adolescent pregnancy and a family

- history of teenage births. *Perspectives sexual and reproductive health*, 39 : 108-115, 2005.
- 31) 小川久貴子, 安達久美子, 恵美須文枝: 日本の若年妊婦のストレスフルライフイベントにおける対人関係による認知的評価の変化. 日本保健科学学会誌, 13 (4) : 145-159, 2011.
- 32) 河野美代子: 若年者の人工妊娠中絶. 周産期医学, 32 (2) : 179-183, 2002.
- 33) 大川聡子: 10代の母親が社会化する過程において、顕在化する支援ニーズ. 立命館産業社会論集, 46 (2) : 67-88, 2010.
- 34) 永山さなえ, 比嘉 綾子, 塩川明子, 他: 若年妊産婦支援についての検討. 沖縄の小児保健, 34: 23-27, 2007.
- 35) 岡本真寿美, 島村玲子, 河本由子: 予期せぬ妊娠をした若年初産婦への支援 親となる過程への支援. 日本看護学会論文集 母性看護, 37: 125-127, 2006.
- 36) 森田明美: 10代で出産した母親たちの子育て～実態調査から学ぶこと～. 月刊福祉, 87 (5) : 42-45, 2004.

Original Article

**The process to continue pregnancy in pregnant teenagers:
Focusing on emotional side and social coping**

Asako OTSUKA, R.N., P.H.N.¹⁾ Jun OKAMURA, M.H.S.¹⁾

The purpose of this study was to clarify the process to continue pregnancy prior to giving birth in pregnant teenagers focusing on emotional side and social coping. Four pregnant teenagers who were unmarried and primiparous at the time they became pregnant were asked to describe life events by drawing a lifeline. A narrative interview was conducted at 9 months of pregnancy and a semi-structured interview at 1 month after delivery (regarding the process to continue pregnancy before delivery). The data obtained were analyzed qualitatively. The only life event common to the four pregnant teenagers in the process to continue pregnancy was “noticing pregnancy”. Each subject’s life events were full of variety. All of the subject’s lifelines bottomed in the first half of pregnancy, then rose gradually from the second half. Stressful life events that were common to more than two of the subjects were related to their partner. Pregnant teenagers became emotionally stressed in the first half of pregnancy due to the relationship between their partner and their partner’s noncommittal attitude. These results suggested that pregnant teenagers continue their pregnancies despite various conflicts in the following processes such as the process to get approval of continuing the pregnancy by her family if she had been objected and the process to persuade her partner if her partner had a noncommittal attitude and unstable work. It was also suggested that even if the pregnancy was intended and the approval of the family had been obtained, there were processes to solve the economic problem due to a trouble of the partner’s job and minor problems such as dealing with morning sickness.

Key words: pregnant teenager, life event, emotional side, social coping, process to continue pregnancy

1) Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing